

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

白みゆく朝の寒さよ被災地は如何ばかりなる
 歳暮に至りて 石田みどり
 うしろ足器用につかい起き上がるアオクサカ
 メムシか緑鮮やか 鈴木 茂子
 木枯らしをもとせずに幼女らは赤い頬つ
 べで駆け競べする 寺崎 悦子
 この頃は厨に立つこと稀となり水の冷たさ改
 めて知る 阿部みさ子
 ミズナラの森を跳び交うリス家族どんぐり喰
 いて秋の日を浴ぶ 後藤 淑子
 柚子ジャムを煮る香ほんのり立ち込めて師走
 の日差し茶の間にとどく 阿部はぎの
 一言も返してならぬ己がこころ伏せて耐へな
 む商ふはきびし 後藤今朝雄
 秋深く青根の山も色づけば尋ねて見る古賀
 氏の碑 佐藤喜和子
 なべ料理手品のように味を変え三日もたせた
 やりくり上手 佐藤 啓子
 さむ空に赤き実ついはむ子雀の仕草かわゆく
 しはし見とれつ 荒木喜代子

【評】一首目、被災された方々のくらしに、ご自身の日常を重ねる。結句が効果的。
 二首目、刺激すると厄介な虫。興味ぶかけに見つめる作者が浮かぶ。
 三首目、「頬つべ」は、頬辺(ほおべた)が変化した幼児語で、ここでは生き生きと伝わった。いい光景だ。

俳壇

遠藤 秋尾 選

水の田に如何ほどの餌スワン来る 岩澤 伍峯
 深々と声なき村を覆ふ雪 岩松 隆志
 忘年会北国の春合唱す 高子たちばあ
 ドア開けて首をすくめる霜の朝 佐藤 啓子
 電波時計毎分光る夜長かな 阿部はぎの

「壬辰」

風間市長の風のそよぎ

今年辰年です。十二支では「辰」の字があてられます。「辰」は架空の動物で、もちろん日本列島にはいませんが、「たつ」という言葉は存在したようです。大和ことばに「たつ」があり、田んぼの「た」、竜巻の「たつ」や夕立の「たち」など、自然現象に用いられることが多かったようです。本来、「立つ」は下から上へ立ち上がることで、昇っていくことです。天に昇るのは「龍」で、中国から「龍」の概念が入って来た時、そのイメージにふさわしい言葉として「龍(りゅう)」を「たつ」と呼んだようです。「龍」というと皆さんは何を思い浮かべますか？ 私は「神龍(シエンロン)」を思い浮かべます。24年前の辰年の賀状に、神龍を描いて出した記憶があります。「神龍(シエンロン)」とは、昭和59年から連載が始まった鳥山明作「DRAGON BALL」に出てくる「龍」です。「神龍(シエンロン)」はいつでも出てくるわけではなくありません。球の中に星が1粒から7粒まで入っている「龍球(ドラゴンボール)」を七つ全部集めて呪文をと念えると、「神龍(シエンロン)」が現れて、どんな願いでも1つ叶えてくれます。球(ドラゴンボール)に戻り、四方八方に飛び散ってしまします。始まりはこの「龍球(ドラゴンボール)」を、孫悟空という少年とブルマという少女が7つ集める旅から始まりますが、話がどんどん大きくなって、宇宙規模にまで飛躍しました。この「神龍(シエンロン)」のことは、描き方がすてきだったのでよく覚えていました。「龍」というと東洋的なものですが、西洋にも「龍」は存在します。西洋の龍は「ドラゴン」で、想像上の生き物ですが、東洋と西洋では姿が異なります。「ハリポッター」にも登場しますが、西洋の「ドラゴン」は天空を自在に飛ぶために羽根があり、東洋の「龍」は翼がなくとも翔ぶことができます。さらに、西洋の「ドラゴン」は多くの場合、悪魔的扱いをされて



鬼小十郎まつりマスコットキャラクターポチ武者こじゅうろう

いますが、東洋の「龍」は神聖的な扱いをされている点も違いが感じられます。私たちは、昨年に未曾有の経験をしました。その経験で得たことを今後の生活に生かしていかなければならないと思っています。各々がその時体験し反省したことなど、感じたことを糧に、それぞれの家庭で有事に対して万全の準備を整えておかなければなりません。そのことが震災からの自立、復旧・復興であり、さらに発展につながります。今年辰年。「がんばっぺ！白石」を合言葉に、健康管理を怠らず「共汗・共学・共生」の精神で、みんなの力を結集し、「交流拠点都市」としての願いが叶う辰年としましょう。「龍球(ドラゴンボール)」に頼らず、市民の皆さんの力で「昇龍」の如く！飛躍の年にしましょう。

柳壇

四電 英夫 選

両の手を空いっばいに小春かな 寺崎 悦子
 暮れ六つの鐘のひびきや日脚伸ぶ 遠藤 忠臣
 あれこれの亡母のおせち模索する 大庭美智子
 正月や昔を偲ぶだんご挿し 制野 リエ
 新米のおにぎり心のこもりけり 跡部 祐子

【評】一句目、白鳥は11月ごろより3月ごろまで渡ってくる。餌付け廃止から数年になるが、重に落穂などを拾いながらの毎日の様子に心痛めている作者。
 二句目、雪深い山村の景である。「声なき村」が、積雪の深さとともに春を待つ村人の暮らしも見えてくる。
 三句目、大地震大津波に日本中から東北に温かい目が向けられた一年だった。忘年会は前向きに北国の春を合唱したのであろう。

俳壇

古山 さとし

賛成に消され正論遠くなり 草野 清
 今日も無事朝の味噌汁妻の味 梶川善之朗
 髪染めてまだ生きる気の八十路坂 阿部はぎの
 聞こえない振りをするのも老いの知恵

色付けしてもらい手もなく萎む柿 大庭 良子
 福の神拍手だけじゃ顔見せず 遠藤 松雄
 蝶番軋みはじめて老いを知る 遠藤 行夫
 手探りで何があるうと進むだけ 斎藤 典子
 ブルシート蔵王おろしと四つに組み 寺崎 悦子

【評】一句目、多数決は民主主義の原則。しかし少数意見も尊重されなければならぬ。「それでも地球は動いている」と言って譲らなかつた天文学者もいたとか。
 二句目、しばれるネエ冬は寒いから味噌汁がうまいだよネエ。歌の文句にもある通り味噌汁は古今を通じて日本人の味である。
 三句目、女性のたしなみは、年や職業に関係ない。なでしこジャパンの選手にも、ピアスが光っている。

—思いやりのある良質で信頼される医療を目指して—

公立刈田総合病院紹介

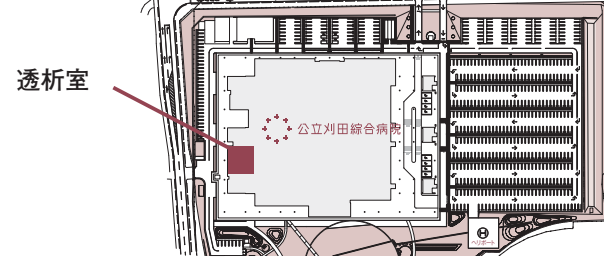


公立刈田総合病院 ☎25-2145

透析室拡張工事のお知らせ

当院では、平成22年6月に策定した「公立刈田総合病院改革プラン(改定版)」に基づき、増加傾向にある透析患者さまの受け入れ体制を強化するため、現在42床ある透析室に8床を増床する拡張工事を行います。これにより、透析患者さまの受け入れ人数(平成23年12月末現在125人)を平成25年度までに約25人増加させる計画です。工事期間中、機材の搬入などのため、皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- 工事予定期間 2月下旬から7月下旬
- 工事に関する問い合わせ先
 経理課管財係 ☎25-2145 (内線2407)



第37回ロビーコンサートを開催しました

1月18日、当院1階ロビーで第37回ロビーコンサートを開催しました。この日は、白石高校管楽部の1・2年の部員8人と、同管楽部を指導している柴田町の若松聡子さんが歌謡曲など5曲を披露。集まった約50人は、「春よ、来い」の演奏が始まると、管の伴奏に合わせて歌を口ずさむなど、和やかな時間を過ごしました。

当院では、音楽が病気を治す手助けをしてくれると考えています。演奏や歌声を披露していただける方を募集しています。詳しくは、お問い合わせください。
 ◎情報企画課企画係 ☎25-2145 (内線2804)



まちの話題

～あの日、あの時～

今年1年の無事を願って 平成24年白石市消防出初式

1月9日、新年の恒例行事「平成24年白石市消防出初式」をホワイトキューブで開催し、白石市消防団(跡部敏団長)の団員630人が、今年1年の無事を願い決意を新たにしました。この日は、東・南・越河・大鷹沢保育園の幼年消防クラブの園児による「防火の誓い」や、白石市消防団伝統階子乗隊による演技が行われ市民の皆さんを楽しませていました。また、初期消火活動協力団体として羽山砕石(株)自衛消防隊に感謝状が贈られたほか、1年間無火災だった大鷹沢分団や消防団員として長年活躍された方々に表彰状が贈られました。式典終了後は、はしご車やポンプ積載車、消防団によるパレードが行われ、沿道から声援が送られていました。



1 地域防災の要となる消防団の皆さん



2 「防火の誓い」を元気に行った幼年消防クラブの園児たち



3 白石市消防団伝統階子乗隊による演技。鶴亀を披露し1年の無事と復興を願いました